

# わがまち紹介

## 坂東市

「選ばれるまち」への未来ビジョン

坂東市長  
木村敏文氏



株式会社筑波銀行 岩井支店長兼  
岩井西支店長  
小林誠之

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。  
「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。  
今回は茨城県坂東市です。岩井支店長兼岩井西支店長 小林 誠之が坂東市長 木村 敏文氏にお話を伺いました。

### 市政運営の手応えと 3期目の新体制

2017年に市長に就任してまず取り組んだのは、子ども・子育て支援に関わる政策でした。連日酷暑が続く中、暑い教室で授業を受ける子どもたちを見て、早急に市内小中学校の普通教室へのエアコン整備を実施しました。3期目の市政運営を担い始めた2025年には学校体育館へのエアコン整備に着手し、2027年度には全校への設置を完了させる予定です。夏季の熱中症対策など子どもたちの安全な学校生活を守ることに加え、災害時に市民の皆さんが避難場所として体育館を利用することにも配慮しています。

学校給食費に関しては、国は2026年度から小学校の無償化を開始するとしていますが、本市はそれに先んじて2017年から段階的な無償化を進め、2024年9月から市内小中学校児童生徒の給食費無償化を開始しました。人口減少対策と子育て世帯支援の両面で効果を期待できることから、恒久的な全

額無償化に踏み切ったものです。市外への通学や、様々な理由により給食を食べられない児童生徒のご家庭には、給食費相当の補助を出す形で支援をしています。

これらの政策については、市民の皆さんから「良かった」「助かった」という感謝の声を数多くいただいております。

また、より効率的かつ効果的な行政運営をしていくため、情報の共有や横の連携がスムーズになるよう市役所の機構改革を行いました。4月1日から企画部と上下水道部を廃止し、7部から5部に変更となります。政策部門の強化のため、企画課と財政課を企画部から市長公室に移管し、政策調査課を廃止して企画課に統合しました。市民に身近な窓口機能を強化するため、課税課と収納課を総務部から市民生活部に移管しました。さらに、インフラに関する業務の連携を強化するため、上下水道部を廃止し、都市建設部に下水道課と水道課を統合した「上下水道課（公営企業）」を新設しました。これは現在、県が水

道事業の広域連携による経営の一体化を進めているため、その対応に向けての措置です。

## 坂東PAハイウェイ・オアシスや坂東将門の里を整備

今年は「ぼんどう未来ビジョン」第3期戦略プラン(2026~2029年)の初年度であり、重視する事業の一つに「坂東PAハイウェイ・オアシス」の整備計画があります。パーキングエリアと都市公園を一体的に整備する県内初、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)初となる取り組みです。現在、官民連携で整備した売店と都市公園の一部(広場、駐車場など)の先行オープンにより、地元の皆さんや圏央道を利用する皆さんの利便性向上に努めております。昨年10月には同公園でオープン一周年記念イベントを開催し、市内小学生がデザインしたハイウェイスタンプをお披露目するとともに、地域と連携したキッチンカーやワークショップの出店、キッズダンスの演舞などを実施し、多くの人でにぎわいました。

今後も引き続き、公園広場や調整池などの基盤整備を進めていきます。また、地域活性化拠点として官民連携手法の活用により本市の魅力を生かすことができる物販施設や飲食店などの複合施設、遊戯施設などのにぎわい創出に向けた公園施設整備を進めていく考えです。



整備が進む坂東PAハイウェイ・オアシス

観光・交流の促進やにぎわいづくりについては、本市の基幹産業である農業も大きく貢献しています。本市では首都圏に近い立地と利根川流域の肥沃な土壌を生かし、野菜や米の生産が盛んに行われています。特に、夏ねぎ、レタス、春はくさいは「茨城県銘柄産地」に、冬春トマトは「茨城県銘柄推進産地」に指定され、高い生産性と優れた品質を誇っています。これらブランド化された農産物を広く認知してもらい、消費者に選ばれる産地となるよう、県内外の催事会場に足を運んでPR活動に力を入れています。

昨年4月には、利根川を挟んで千葉県野田市と本市を結ぶ下総利根大橋のたもとに坂東市産業経済交流施設「坂東将門の里」をオープンしました。農産

物直売所やサイクルステーションをはじめ、観光情報ブース、シャワー室、ロフトラウンジ、展望デッキなど施設が充実し、屋外にもマルシェ広場、パーゴラ、芝生広場などを整備しました。生鮮野菜や名産品が好評で、千葉県や埼玉県からも多くのお客様が訪れており、にぎわいをみせています。ここを地元野菜のPR拠点とするのはもちろん、観光スポットを周遊するサイクルマップなどの情報を発信し、市内観光のPR拠点にしていきます。



生鮮野菜が好評な「坂東将門の里」

## 企業からの評価が高い工業団地

近年、圏央道の沿線で企業の進出が活性化しており、本市でも坂東インターチェンジ開通に伴い圏央道の効果を最大限に発揮しようと、市内で4つ目となる新たな工業団地「フロンティアパーク坂東」の整備を県と共同で進めています。2024年3月から造成工事に着手し、2025年9月に「さしま台」という新たな町(まち)の区域を設定しました。すでに分譲を開始しており、全12区画のうち4区画(約23.1ha)に3社の立地が決定しています。市内産業の活性化や就業の場の確保、安定財源の確保を目標に、優良企業の誘致を図るため、早期の造成完了に向けて工事が進行中です。

一方、既存の3つの工業団地については、全ての区画が分譲済みとなっており、ほぼ全ての区画で操業が開始されています。直近では3月に坂東インター工業団地でJA全農の冷凍青果物製造工場が竣工し、4月から本格稼働します。

このように順調に企業誘致が進んでいる要因として、都心に近いことや、圏央道の開通によって交通の利便性が飛躍的に向上したこと、いずれの工業団地も浸水想定区域から外れ災害に強いエリアであることなどが、企業から評価されたものと考えています。

加えて本市では、地域経済を牽引する優良企業を積極的に誘致するための施策を拡充しています。市内工業団内に立地し、要件を満たした企業に対して、最大3年間にわたって固定資産税相当額の奨励金を交付しています。さらに2025年9月には、新たに未来投資促進法に基づく固定資産税の免除を受けられ

る条例を制定しました。また、2023年度に設けた立地企業の人材確保のための移住奨励金制度について、今年からその金額を倍増します。ほかにも、立地企業が社宅を整備する際の支援制度を創設したところです。今後も引き続き、企業にとって魅力ある施策を展開し、「選ばれるまち」として企業立地を促進していきます。



フロンティアパーク坂東の完成イメージ図

## 未来を支える世代を手厚く支援

少子高齢化社会を迎え、移住・定住促進や転出抑制は重要な課題となっています。本市は20代女性層を中心に若年層の転出超過が目立ち、将来の担い手不足により地域の存続が危ぶまれることから、対策が急務となっています。

2022年度に創設した「子育て世代定住促進奨励金」では、戸建て住宅を取得して市内に移住する若年層に最大30万円の奨励金を支給し、確実に定住が見込める移住者を呼び込むとともに、転出した方が地元に戻ることを支援しています。これまでに約100件の申請があり、移住した方は累計で300人に迫ります。2026年度からは、対象を市内在住の方に拡大して転出抑制を図るほか、支給上限を50万円に引き上げ、さらに転入者加算20万円を追加しました。支援の拡充により、住宅を起点にした移住・定住のさらなる促進を図っていきます。

また2024年度には「奨学金返還支援補助金」を、2025年度には「医療福祉職奨学金返還支援補助金」を創設し、卒業後に働きながら奨学金の返還を始めた市内の方に返還額の一部を支援しています。特に、「医療福祉職奨学金返還支援補助金」は市内勤務の方により手厚く補助することで、人材確保や職住近接のまちづくりにつなげていきます。さらに、2026年度から「奨学金返還支援補助金」を5年間で最大120万円、「医療福祉職奨学金返還支援補助金」を5年間で最大240万円に支給上限額を倍増しました。県内最高額に引き上げる思い切った拡充により、若年層を強力に支援しています。

これらの助成事業だけでなく、子育て世帯向けのサポート充実による定住促進にも取り組んでいます。冒頭でお話した給食費の無償化もその一つです。また、猿島庁舎跡地に計画している地域複合施設には、全天候型の人工芝広場、屋内遊戯室、市民交流スペースなどを備え、子育て世代を中心に多様な行政サービスを提供する拠点として、幅広くご活用いただけるよう整備する予定です。

本市で生まれ育った方が、進学のために一旦は故郷を離れても、また戻ってきていただきたいという思いを込めて、ご紹介したような手厚い移住・定住の支援策や若者への支援策を用意しています。こうした取り組みを通じて、未来を支える子育て世代の方々に選ばれるまちを目指していきます。

## 外国人との秩序ある共生に向けて

県内でも市町村によって外国人の就労形態や居住状況は異なりますが、本市の場合は企業に勤務する方や技能実習生として農業に携わる方が多い傾向にあります。また、本市は県内でも外国人の比率が高いことから、企業や教育現場などにおいて言語の壁や習慣の違いによる摩擦など様々な課題が存在します。そうした中、2024年9月に登録した「いばらきダイバーシティ宣言」に基づき、多様性を認め合えるまちを目指しています。特に、雇用者が国の制度に基づいて適切な労働条件で外国人を雇用し、秩序ある共生を図っていくことが重要です。

本市では、市民協働課に「多文化共生係」を新設しました。外国人の就労や居住状況の実態を確認すると共に、行政として何が求められ、今後どのような施策が必要になるかを把握しながら、様々な取り組みを進めていきます。具体的には、市ホームページやSNSを活用した多言語情報発信を充実させ、地域社会における円滑なコミュニケーションを目指すとともに、地域のルールを守ることの重要性を啓発していきます。また、共生に関する講演会の開催や、外国人対応力の向上に向けた人材育成などを通じて、地域の一体感を高めていきます。

## 筑波銀行に期待すること

筑波銀行さんには、これまで本市の様々な事業にご尽力いただきました。経営者の方々をはじめ銀行を利用される皆さんに対し、親身に相談にのっていただき、親しみを感じる金融機関である点が一番の特長だと思っています。また、将門まつり・ハーフマラソンや年2回の「ばんどう応援市」にも大変ご協力をいただいております。そのような取り組みも含めて今後も共存共栄していければと願っています。

(取材日:2026年3月27日)

このコーナーでは、「支店長のわがまち紹介」で取材させていただいた市町村の施策や事業、取り組みなどを紹介しています。



# わがまちの ふるさと納税

## 坂東市

### さしま茶



茨城三大銘茶の一つ「さしま茶」。江戸時代から生産され、1859年、地元（坂東市辺田）の豪農・中山元成により日本茶で初めてアメリカへ輸出された歴史あるお茶です。厚みのある茶葉から生まれる濃厚な味と深い香り、適度な渋みとコクが楽しめます。



**米** 利根川水系の豊かな水と肥沃な大地に恵まれる坂東市では、お米の生産が盛んです。市内では様々なブランド米が生産されており、それぞれの味わいの違いをぜひ食べ比べてご堪能ください。



### 豚肉

甘くさらりとした脂が特徴の「三右衛門」、坂東市産の飼料米やさつまいもで育つコクとまるやかな味わいの「糖り豚」、じっくり熟成させ旨みが凝縮された「熟成豚」。坂東市が誇る至福の豚肉をご賞味ください。



### ゴルフ場利用券

都心から車で約1時間と好アクセス。多彩なコースと美しい景観のゴルフ場が揃い、初心者から上級者まで楽しめます。豊かな自然環境の中で、心地よいひとときを過ごしてみませんか。



### 銀のグラニューロ

電子機器などに含まれる貴金属資源、いわゆる「都市鉱山」から精製した純度99.99%の銀粒。坂東市の企業が生み出す環境にも配慮した美しい輝きは、飾るだけで空間に上質な彩りを添えます。



### 日本酒

坂東市産酒米を100%使用した、華やかな香りやフレッシュな味わいの「秀緑」、すっきりとキレが際立つ超辛口の「将門」。それぞれ異なる魅力を楽しめる、坂東市自慢の日本酒です。



### スティックチーズケーキ

手軽で美味しいスティックタイプのチーズケーキ。口に入れた瞬間に広がるクリームチーズの豊かな風味と、しっとりとした口あたりは、チーズ好きにはたまらない本格的な味わいです。



### シリコンプレート 匠

工業用シリコンゴムの加工技術を活かし、ガラスのような透明感と割れずに優しく手になじむ質感のシリコンプレート。熟練の技術で一つ一つ丁寧に仕上げた、美しさと使いやすさを兼ね備えた一皿です。贈り物やインテリアにもどうぞ。



### 季節のお野菜詰合せ

首都圏の台所を支える近郊農業の拠点・坂東市。豊かな大地が育んだ旬の野菜を、採れたてそのままにお届けします。野菜直売所の目利きのプロが選ぶ厳選野菜を、ぜひご家庭でご賞味ください。



楽天



ふるさとチョイス



ふるなび

Bando-city

Bando-city